

翁久允研究

—日系アメリカ文学および 富山の文化・文学の観点から

2022(令和4)年5月23日 とやま賞贈呈式・記念講演

於)パレブラン高志会館

富山大学教養教育院 准教授 水野真理子

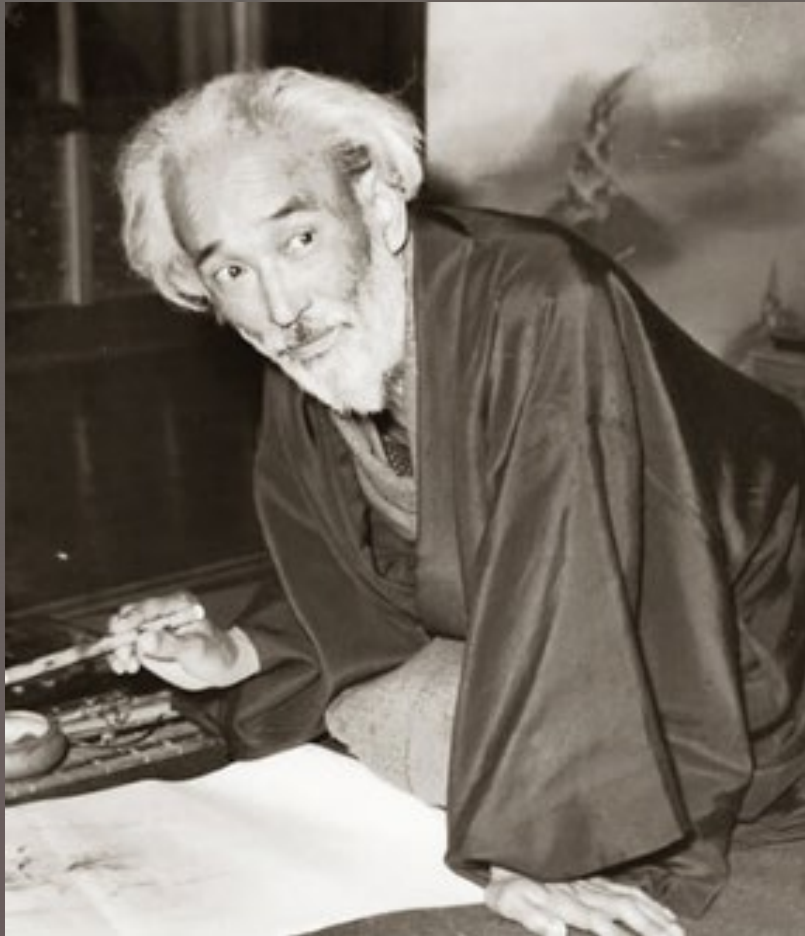
▶ はじめに一研究にいたる背景

アメリカ文学専攻。独自の研究テーマを模索。文学研究を通じて歴史、思想、文化を考察。富山県民、日本人であるという背景。



日系アメリカ文学への関心。
日本人が渡米した歴史、アメリカにおける日本の文化、日本人的思想、価値観。
一世世代翁久允(富山県立山町出身)

翁久允とは



翁久允(1888-1973) 富山県立山町六郎谷出身、旧制富山中学校中退後、上京し渡米。

シアトル、スタクトンなど、在米日本人社会で移民地文芸を創作、牽引。

1924年帰国後、『週刊朝日』の編集に携わる。1931年に再渡米、インド旅行後、郷土研究に関心を持ち『高志人』を創刊。富山の文化、文学の発展に尽力。

翁の移民地文芸論、コスモポリタン思想、郷土研究

⇒近代日本の市民がアメリカでどのような文化的接触をし、培った思想を日本でどう生かしたか

⇒翁のアメリカ時代から富山時代を通して、日系アメリカ文学、郷土文学の両面から研究する必要性

移民地文芸

- 日系アメリカ人の文学とは？
- 1880年代以降(明治10年代)、渡米した日本人たちが、在米日本人社会で発行される邦字新聞などに小説や短歌、俳句などを発表。
- 日本語文学の流れ(一世世代から帰米二世、戦後移住者)と英語文学(二世、三世以降)の流れ。
- 在米日本人の異国で生きる苦しさ、人種差別の体験、アイデンティティをめぐる悩みなどを小説に描く。
- 移民地文芸の必要性を訴えた。



▶ 「世界人」「コスモポリタン」の概念

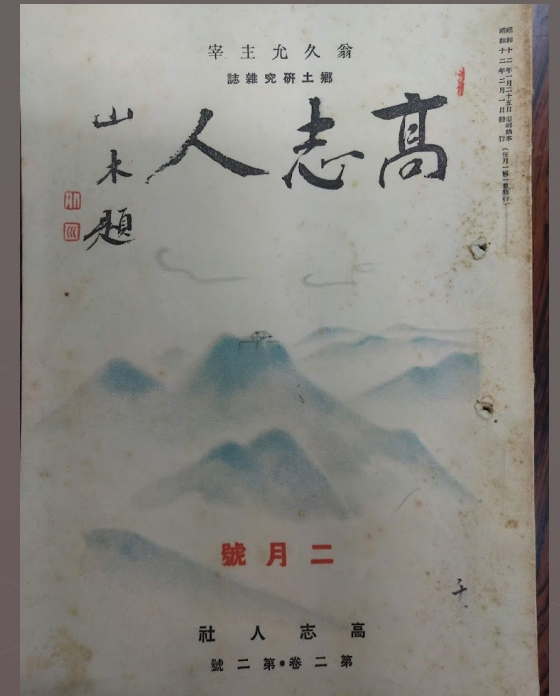
アイデンティティをめぐる葛藤
アメリカ人にもなり切れない、
日本の日本人とも異なる在米日本人、
ぬぐいきれない日本人性、人種差別の現実



「世界人」「コスモポリタン」～自身の民族、出自の特性
を堅持しながら、世界的な視野を持ち、世界で活躍。
他国、他民族の特性も尊重、差別しない。
国家や民族が個々の文化・伝統を高めるところに平和。
※翁独自の経験から生み出されたところが大きい。

「コスモポリタン」思想と郷土研究

- 「世界人」「コスモポリタン」となるためには、まず自身を、故郷を知るべき。
- ・ 郷土研究への関心。郷土誌『高志人』創刊(1936年)
「望遠鏡で世界を観察し、顕微鏡で祖国を掘り下げる」
(『翁久允全集10』<1973>p.85)



▼ おわりに

・現代的意義～グローバル化、多様化する社会。自国を知ると同時に、他国の人々への理解が必須。

世界的な視野を持ちつつ、地域にも根差すという意識。

・今後の課題～翁の後半生、『高志人』を主軸とした郷土研究と翁の功績を、前半生を踏まえ、総合的にまとめる。



翁久允研究

—日系アメリカ文学および 富山の文化・文学の観点から

2022(令和4)年5月23日 とやま賞贈呈式・記念講演

於)パレブラン高志会館

富山大学教養教育院 准教授 水野真理子